

# 旬なひと

## 羽生ばやし保存会



旧玉造町羽生地区に200年以上前から伝わるという「囃子」。この伝統芸能を後世に伝えるため、昭和43年に羽生ばやし保存会が発足しました。

以来、地域のイベント発表や福祉施設の慰問活動等を行っており、このたび青少年健全育成と社会福祉の貢献が認められ、(社)日本善行会、春季善行章受賞となりました。

今回は、羽生ばやし保存会代表の山中日出夫さんと子どもたちにお話を伺いました。



代表の山中日出夫さんに  
インタビュー

### ■受賞した感想は

このような素晴らしい賞をいただいたので、感激しています。子どもたちもこの賞を励みに、いっそう頑張ってくれようと思います。

### ■どのような目的で結成しましたか

およそ200年続いているといわれている囃子を後世に伝えていかなければと思い、羽生ばやし保存会として昭和43年に結成しました。

### ■構成メンバーは

現在小学生19人、中学生4人、高校生3人です。あと大



善行賞を受賞した代表の山中日出夫さん

人を入れると50人程度です。  
■どのような活動をしていますか

市内外の福祉施設の慰問や地域の祭りやイベント発表です。大きな発表では、つくば万博や、東京の日野市で行われた新撰組交流会などがあります。

### ■いつ練習していますか

火、木、土の夜7時30分から1時間です。

### ■子どもたちに伝えたいことは

伝統文化はもちろんです。あいつつなど基本的なことを大事にしています。また、玄関では靴をそろえて上がる、宿題を終えてから練習に参加するなど、基本だからこそ身に付けて欲しいので、繰り返し子どもたちに伝えています。

### 小学生にインタビュー

### ■なぜ羽生ばやしに入ろうと思ったか

姉が入っていて、楽しそう



羽生地区学習センターで週3日練習しています

だったから。(4年の幡谷絵理奈さん—おかめ役)

### ■踊りが好きですか

最初からおかめをやりたい。これからおかめを続けたい。(4年の後藤優希さん—おかめ役)

■どんなところが難しいですか

狐は動きが速くて、覚えるのが大変。(6年の宮久保衣織さん—狐役)

### ■どんなときが楽しいですか

お祭りで演奏しているときが楽しい。(6年の井野場貴光君—大太鼓)